



『精霊の守り人』
上橋 菜穂子 / 作
二木 真希子 / 絵
偕成社 F/ウ

用心棒のバルサが守るのは、精霊の卵を宿し、命をねらわれている第二皇子のチャグム。精霊の卵の秘密を知ったバルサは、チャグムと精霊の卵を守りきることができるのでしょうか。



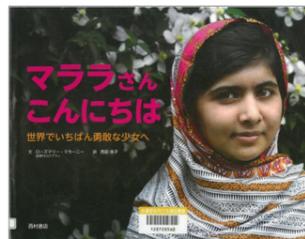
『かさねちゃんにきいてみな』
有沢 佳映 / 著 講談社 F/A

登校班をまとめるのは、カリスマ班長のかさねちゃん。困ったら、「かさねちゃんにきいてみな」。年も性格もバラバラで個性豊かな8人の、毎朝の歩みがえがられます。



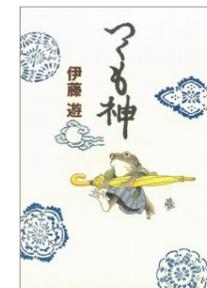
『ワンダー』
R.J. パラシオ / 作
中井 はるの / 訳
ほるぷ出版 933/パ

オーガストは、生まれつき顔に障がいをもつ男の子。学校ではクラスメイトにさげられたりして、いやな思いもしますが、一緒に笑いあえる、大事な仲間もできました。



『マララさん こんにちは』
世界でいちばん勇敢な少女へ
ローズマリー・マカーニ / 文
西田 佳子 / 訳 西村書店 E/マ

女の子が教育を受けることが「当たり前」ではない国があります。女の子の権利を求め、声をあげたマララ。世界中の女の子からマララへのメッセージをつづった1冊です。



『つくも神』
伊藤 遊 / 作
岡本 順 / 画
ポプラ社 F/イ

マンションの放火さわぎの後、ほのかのまわりでは次々と不思議な事件が発生。どうやら、となりの家の土蔵にある古い道具たちが関係しているらしく…ちよつと不思議でなつかしい物語。

『君たちはどう生きるか』
吉野 源三郎 / 著
マガジンハウス 159/ヨ

学校で起こるいじめ、上級生からの制裁。中学生のコペル君はそういった出来事を通じ、考え、なやみ、やがて決意します。人間としてどう生きるのか、考える1冊です。



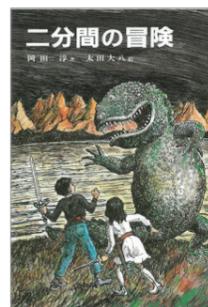
『食べているのは生きものだ』
森枝 卓士 / 文・写真
福音館書店 383/モ

おすしは魚、からあげはニワトリ、ステーキは牛。私たちは生きものを食べています。命をいただくということを、みなさんはどのように考えますか？



『二分間の冒険』
岡田 淳 / 著
太田 大八 / 絵
偕成社 F/オ

悟(さとる)が保健室に行こうとすると、黒ネコによって、リュウが支配する世界に送られてしまいました。思いがけず、リュウ退治することになった悟の不思議な冒険のおはなし。



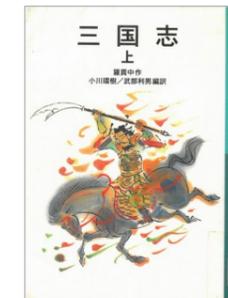
『夏の庭 -The Friends-』
湯本 香樹実 / 作
徳間書店 F/ユ

人の「死」を見てみたくて、ひとり暮らしのおじいさんを見張り始めた木山、山下、川辺。やがておじいさんと三人は段々近くなって…忘れられない夏をえがいた物語。



『三国志 上・中・下』
羅 貫中 / 作
小川 環樹 / 編訳
武部 利男 / 編訳
岩波書店 923/ラ

はるか昔、苦しい民を救うため立ち上がった男たちがいました。劉備(りゅうへい)、関羽(かんう)、張飛(ちやうひ)の三人は兄弟のちぎりを結び、天下統一を目指します。



『クローディアの秘密』
E.L. カニグズバーグ / 作
松永 ふみ子 / 訳 岩波書店 933/カ

クローディアは弟をさそって、家出することにしました。行き先は美術館です。美術館に新しく置かれた「天使の像」の作者がわからないと知って、ふたりは調べることにしました。



『林業少年』
堀米 薫 / 作
スカイエマ / 絵
新日本出版社 F/ホ

主人公の喜樹(きじゆ)の、祖父の仕事は林業。100年間、大事に育てたスギの木を切ることになり、喜樹は両親と姉とともに作業を見に行くことになりました。



『葉っぱのフレディ いのちの旅』
レオ・バスカーリア / 作
みらい なな / 訳 島田 光雄 / 画
童話屋 933/バ

大きな木の最後の葉っぱになったフレディ。親友のダニエルから聞いていた「自分の生きる意味や、死について」を深く考え始めます。「いのちについて」をえがいた絵本です。



『いわたくんちのおばあちゃん』
天野 夏美 / 作 はまの ゆか / 絵
主婦の友社 E/イ

広島へ原爆が投下され、いわたくんちのおばあちゃんの手元に残ったのは、数日前に写した家族写真だけでした。平和と家族、そして命の尊さを感じることができる作品です。



『夜の学校』
田村 理江 / 作 佐竹 美保 / 絵
文研出版 F/タ

6月のある日、塾のバス停を乗り過ごした蘭(らん)が、たどり着いた場所は町はずれの野原。まばゆい光に包まれたと思ったら、そこに広がるのは、いつもの住みなれた町でした。

『頭の大きなロボット』
星 新一 / 作
和田 誠 / 絵
理論社 F/ホ

エヌ氏は、なんでも覚えてくれるロボットを作りました。欠点が見つかるたびにロボットを改造していたら…。『頭の大きなロボット』のほかにも短い物語が18話。

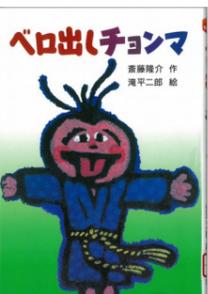


『チームふたり』
吉野 万理子 / 作
宮尾 和孝 / 絵
学研 F/ヨ

卓球部のキャプテンをつとめる、小学校6年生の大地(だいち)。小学生最後の大会に向けて、先生が発表したダブルスの相手は、5年生の純(じゆん)でした。

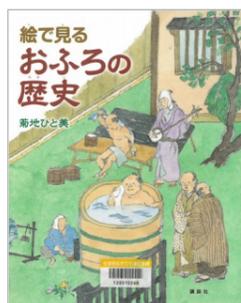


ほん おすすめの 5・6年生



『ペロ出しチョンマ』
斎藤 隆介 / 作 滝平 二郎 / 絵
理論社 F/サ

長松(ちようまつ)がするおかしい顔は、妹のウメが必ず泣き止むほど面白い顔でした。ある日、父親のたくらみが役人にばれて、長松たち家族はつかまってしまいました。



『絵で見るおふろの歴史』
菊地 ひと美 / 文・絵
講談社 E/エ

昔のおふろは、まるでサウナのような感じ。家におふろが置かれるようになったのは最近のこと？おふろの歴史がわかる絵本です。



会津若松市立会津図書館

『ラスコーの洞窟』

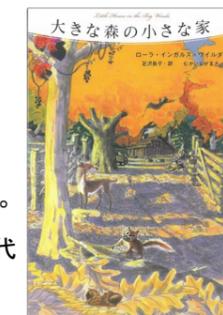
ぼくらの秘密の宝もの』
エミリー・アーノルド・マツカリー / 絵と文
青山 南 / 訳 小峰書店 702/マ

旧石器時代にえがかれた絵を見つけたのは14才の少年たちでした。少年たちは、洞窟で見つけた絵を大人たちに教えますが、なかなか信じてもらえません。



『大きな森の小さな家』
ローラ・インガルス・ワイルダー / 作
足沢 良子 / 訳 むかい ながまさ / 画
草炎社 933/ワ

大きな大きな森の中に住んでいるローラ。となりの家は遠くて、町はもっと遠いけれど、1日1日が楽しい。アメリカの開拓時代を力強く生きた、一家の物語。



『ハッピーバースデー』
命かがやく瞬間』
青木 和雄 / 作 吉富 多美 / 作
加藤 美紀 / 画 金の星社 F/A

11才の誕生日、あすかは母の言葉に深く傷つき、声が出なくなってしまう。自分は生まれないほうがよかったと思うあすかが、人と出会い成長していく物語。



『ぼくのニセモノをつくるには』
ヨシタケ シンスケ / 作
ブロンズ新社 E/ボ

あなたは自分がどんな人間か説明できますか？ニセモノがいたらいいなど考えるけれど、自分を説明するのって、すごく大変です。考えれば考えるほど、分からなくなってきますね。